

国語 (HFJE) (出題の意図)

問題 1

出題文は、社会科学の支柱としての役割を果たしてきたインセンティブという概念や、その働き方について論じたものである。本問は、特定の概念とそれに関するたとえや実験などが記された比較的長文の文章を短い時間で的確に読みこなし、その内容について限られた分量で正確な記述ができるかを問うものである。

問一 文中に用いられている漢字を正確に書くことができるかどうかを問うものである。正解するには、文脈と漢字の持つ意味を正確に捉えている必要がある。

問二 寓話「北風と太陽」についての「説得は強制より有効である」という解釈を、インセンティブという言葉を用いて説明させる問題である。北風と太陽が旅人の服を脱がすためにインセンティブを用いているかどうか、インセンティブが説得になぞらえられるのは何故なのかを簡潔に説明できていることが重要である。

問三 傍線部分の意見を著者が持った理由を、出題文の内容に基づいて具体的に説明させる問題である。傍線部直後にある外発的動機づけと内発的動機づけの区別に関わる記述を適切にまとめるとともに、インセンティブ自体の働き方も正確に理解されているわけではないことも理由たり得ることを把握できていることが重要である。また、字数制限は厳しいので、文章の内容を自身の言葉で短くまとめることができるかも問われている。

問四 傍線部分の内容について、出題文にある実験結果を用いて具体的に説明させる問題である。実験結果とその解釈については傍線部分の直前に示されているが、傍線部分を具体的に説明するためには、インセンティブと内発的動機づけの各内容について、文章全体を通して正確に理解していることが必要である。また、本問も字数に余裕があるとは言えず、正確な内容で全てを記述するためには、自らの言葉でまとめる必要がある。

問題 2

本問は、人間だれしもがもつ付和雷同の心性が、インターネットが普及している今日の社会において、大小の不都合をもたらす場合があることを論じたものである。例示されている実験的研究の内容をふまえて正確に読解し、論理的な記述ができる力を評価することを目的としている。

問一 ワッツ博士らが行った実験での条件の異なる被験者グループの評価結果とジニ係数の値の関係性を正確に読み解いているかを問うものである。実験内容と結果を正しく理解できたかどうかポイントとなる。

問二 付和雷同の群衆心理が人気曲を生み出す理由を問うものである。楽曲自体は優れていなくても、偶発的に人気を集めた場合、人気曲へと成長していく状況を理解することが求められる。

問三 科学的に行われた実験結果を実用的に応用できるという著者の発言を「家人」が批判

的にとらえている点を読み解いているかを問うものである。

問題3

出典は江戸時代の文章で、和歌を含む文章ではあるが比較的平易なものであり、このような文章の大意をつかみ、現代語訳する際には細部にも注意しながら丁寧に訳すことが出来るかをみることを目指した。

問一 多くの歌に鐘の岬のことは詠まれているが、なによりも万葉集という最もふるい歌集に載っている歌に詠まれていることで、この伝承を古いと見なしている、ということが理解できているかを見る。

問二 「(鐘を) つかなくても (名声が鳴り響く)」、ということと、「尽きることなく」という掛け詞を理解した上で、「音に聞く」「わたり」「なりけり」などを正確に訳すことが出来るかを見る。

問三 「～むとせし」を「～ようとした」と訳し、「なかりしに」を「居なかったのだが」(あるいは「居なかったところに」と訳すことが出来るか、また「誰～」を文脈に合わせて「誰も」(あるいは「誰だって」など)と訳すことが出来ているかを見る。

問四 「たとひ～とて」を正確に現代語訳し、後半部分も反語であることを明示して訳せているかを見る。また竜神への尊敬を訳出できているかを見る。

問五 「なじかは……べき」が反語であることを理解して訳していることと、「たまる」を文脈にふさわしく訳すことが出来ているかを見る。

問六 「さへ」を現代語に訳すにあたり、「まで(も)(が)」などで訳すことが出来ているかを見、「～たれば」を「～たので」と訳し、「たより」にも「よりどころ」などの適訳を当てることが出来るかを見る。

問七 (竜のものと伝わる)鐘を引き上げようとした際に、竜が起こしたと見られる大波で運ばれたことと、面自体が見るからに尋常でない作品だということから、竜神から鐘の代わりに遣わされたものだと人々が見ている、ということを読み取り、書くことが出来ているかを見る。